

平成 26 年度第 2 回 J S R 編集委員会 議事録

日 時：平成 26 年 5 月 23 日 13：45-14：45

会 場：神戸ポートピアホテル南館 4 階

出席者：平林 茂（理事）、川口 善治（委員長）、青田 洋一、赤澤 努、笠井 裕一、寒竹 司、
高橋 寛、二階堂 琢也、長谷 斉、長谷川 和宏、

（以上委員、10 名）

三輪様（C B R）、尾島様（J S R 編集分室）、鈴木めぐみ（事務局）

報告事項

1．委員確定の件

平林理事が、本日の理事会で委員が最終確定したと報告した。

委員確定までの経緯としては、理事長より3月末に委員推薦の依頼があり、平林理事と川口理事で検討した候補者リストを理事長へ提出し、5月15日に理事長から内定の連絡があった、とのことであった。

平林理事が、委員相互の委員長選挙の結果、川口先生を推す意見が大多数であったことから、委員長は引き続き川口先生にお願いすることになったと紹介し、川口委員長から平成 26・27年度の2年間もよろしくとの挨拶があった。

2．J S R 電子化ページの件

平林理事が、J S R 電子化について5月2日に事務局にて学会本体のHPを担当しているダイレクト1と、J S R 電子化を担当している三報社およびC B R と、広報委員会の小森理事と平林理事とで会合し、詳細を検討したと説明した。

C B R 三輪氏が、別冊資料を配布し、現状のJ S R 学会誌電子化システムについて説明した。学会本体HPのトップページ上に、J S S R 会員用と非会員用のバナーを作成し、J S S R 会員に関してはJ S S R 会員専用ページのログインID+パスワードでログイン（ログインの際には一度学会本体HPのシステムにアクセスする）でき、非会員は各学会から配布されるID・パスワードでログインする。

C B R 三輪氏が、定型的なID・パスワードの例を各学会代表者へ送るので確認のうえ、ID・パスワードを決めてほしいとの呼びかけ、一同了解した。

平林理事が、なるべく早めに関連7学会については、ID・パスワードを決めてCBRに連絡するようにと指示し、各学会の代表者が了解した。

高橋委員が、IDは学会名の英文字（略称）とし、パスワードは今回決めるものの一部を毎年順繰り変える案を提案した。続いて、各学会から毎年のパスワードを提出することになると思うが、各学会任せにすると忘れてしまう恐れがあるため、CBRのほうからリマインダーを送ってほしいと依頼し、CBR三輪氏が了解した。

また平林理事が、JSSRではJSR電子化に向けて9月に「紙媒体学会誌の要不要調査」を行うが、それに向けてHP上にデモページを開設予定であると報告した。事務局鈴木が、紙媒体学会誌要不要の調査をする際に、電子化学会誌掲載ページがどのようなものか不明だと回答するのが難しくなるために、小森広報委員会担当理事の発案で開設することになったと追加説明した。デモページの完成は、学会誌要不要調査が始まる前（8月末）を予定している。

検討事項

3. その他

【名簿照合の件】

平林理事が、各学会に所属していてJSSRには所属していない人に、JSSRへの登録を呼びかけてほしいと発言したことについて、各学会会員のうちだれがJSSRの非会員なのか不明なため、呼びかけるのが難しいとの意見があった。そこで各学会でJSSRの名簿と照合し、非会員を洗い出す作業を行う案が出された。

【別刷りの件】

長谷川委員が、著者が別刷りを望むとき、電子化した後は作成可能なのかと質問した。CBR三輪氏が、別刷りは本誌を印刷するとき一緒に刷っているものだが、しばらくは紙媒体が存続するので、通常無料となる30部以外の部数を希望する場合のみ料金がかかると回答した。電子化ページではPDFをダウンロードできるので、それを別刷り代わりにできるとの追加説明もされた。

【関連団体代表者委員交代】

東海脊椎脊髄病研究会の笠井委員が、今日の委員会以降、名古屋市立大学の福岡宗良先生と交代すると報告した。電子化学会誌のID・パスワードの連絡までは、笠井委員が行うとの発言があった。

【今後の方向性】

川口委員長が、平成26・27年度のJSR編集委員会の一番の仕事は、2015年1月からの電子化になるだろうとし、また今後の課題として以下の3点があるとした。

雑誌の英文化を目指すか？

オンライン査読導入のための業者選定等

特集号をどうするか。まずは西日本の2巻ある特集号をどのようにするか

以上について、以下のような意見・質疑応答があった。

長谷委員：各団体の投稿論文数の増減はどうか。

寒竹委員：テーマによるが、増えてはいない。

長谷委員：雑誌のクオリティを上げるためには投稿数が多くならないので、まずは投稿数を多くするための方法を検討することが必要。

長谷川委員：西日本脊椎研究会の1号分（年間2号あるうちの1号）を単純に減らすことになると、専門医制度の認定基準として「毎月発刊されている学会誌があること」があったはずなので、問題があるように思う。

寒竹委員：1号分減らしてもらおうか否かは、来月の世話人会で検討予定。

平林理事：1号減る分は、どうにかして埋めるしかない。

川口委員長：専門医制度はJSSS（日本脊髄外科学会）と一緒に立ち上げているので、JSSSの雑誌についても、今後合同出版していく必要があるのだろうか。

平林理事：専門医制度はあくまで二つの学会が共同で行っているだけなので、雑誌を統合する必要はない。

長谷川委員：オンライン査読システムが導入されれば、投稿しやすくなるので投稿数が増えるかもしれないので、完全英文化よりもプライオリティを高めて取り組むべきではないか。

高橋委員：論文を英文化するのは時間がかかるので、今後JSR誌が完全英文化された場合、11月に学術集会が開催されて、4月に論文投稿を締め切るスケジュールのままだと、締め切りを守るのが大変厳しい。どの号にも投稿してよい、というようなシャッフルはできないか。

長谷川委員：締め切りが厳しいから督促でき、結局書いてもらえるという面もある。

二階堂委員：特集号の順番はどのように決まったのだろうか。

長谷川委員：各団体の学術集会開催月から計算して決まった。

笠井委員：東海脊椎脊髄病研究会は、担当号は1冊だが、別に自分たちで雑誌を1冊出しており、その広告費でJSRの分担金をまかなっているところがあり、会費値上げなどもしたが、資金がないならどちらかをやめようという話も出ていた。アクティブな会員も会員数の1/3程度の100名と少ない。

【次回会議予定】

次回の会議

10月の日整会基礎学術集会（鹿児島）時

会場：基礎学術集會会場付近

日時：10月9日朝（7：00-8：00ごろ）予定

開催通知は、日程が近くなったら事務局からいつもどおり送付される予定。

以上